

高校生の進路選択の現状について

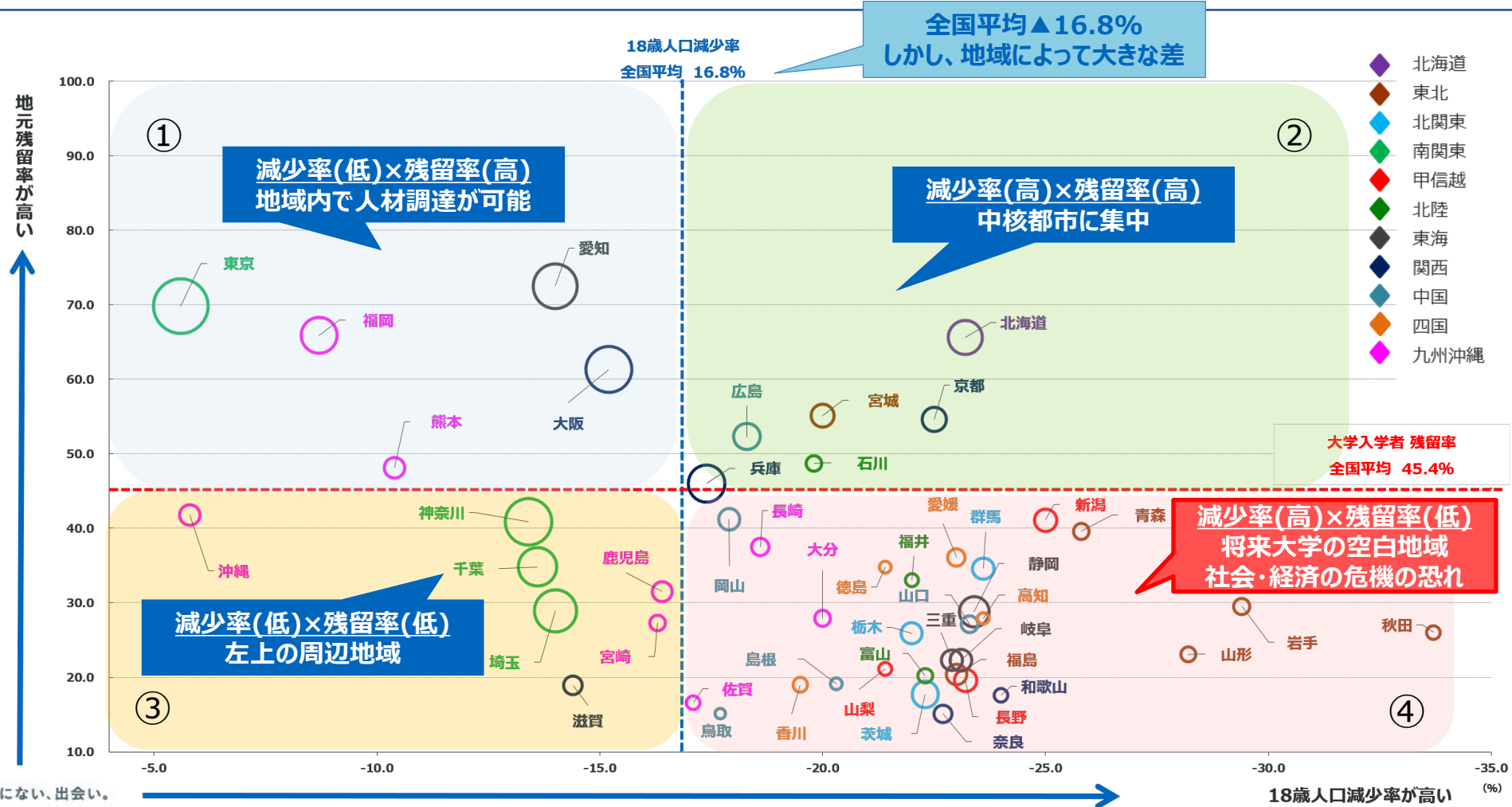
2026年6月10日



株式会社リクルート
リクルート進学総研所長
リクルート「カレッジマネジメント」編集長
小林浩

18歳人口減少率×地元残留率（2025年～2037年）

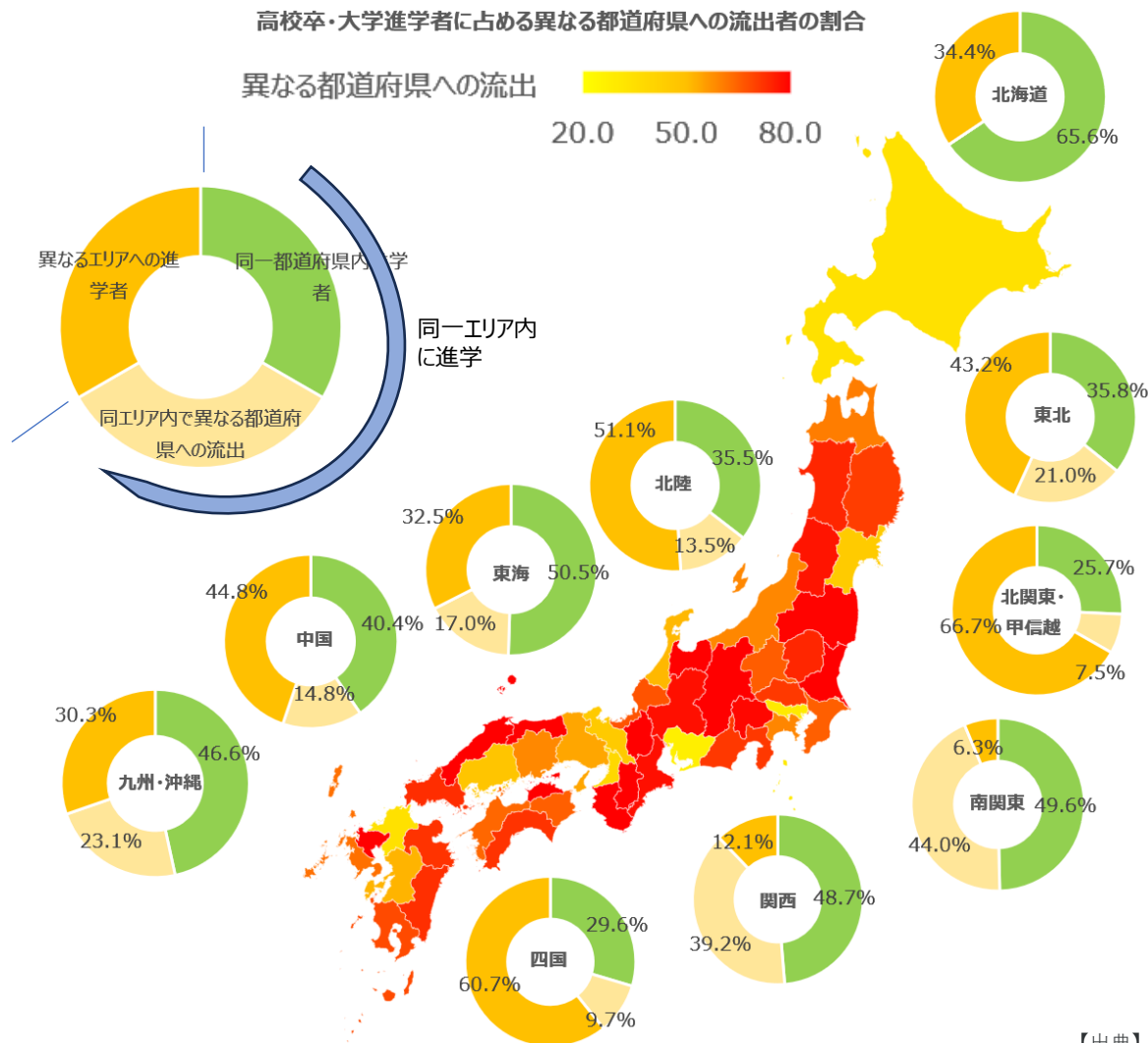
- ◆ 地域ごとに1減少率、地元残留率に差 ⇒ 象限④大学の空白地帯が増加、社会経済全体への影響を想定
- ◆ 中核都市がある道府県は残留率が高い（象限②：北海道、京都、宮城、広島、石川）
- ◆ 首都圏でも、東京以外は減少率は低いが流出地域（象限③：千葉、埼玉、神奈川）



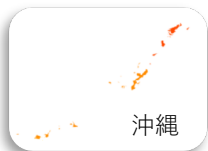
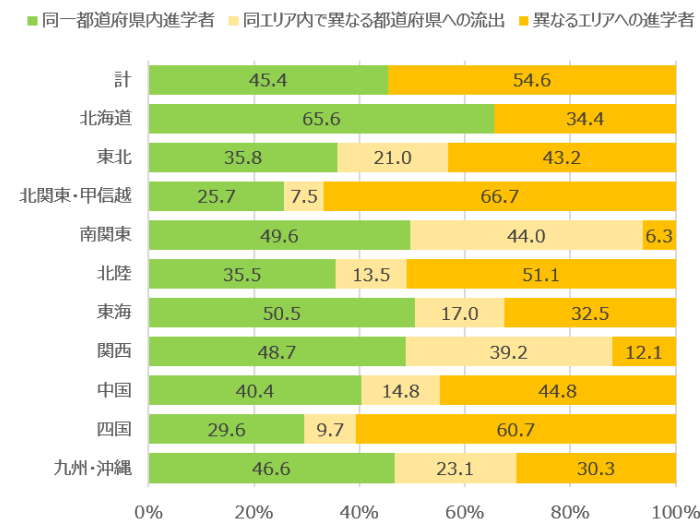
大学入学者に占める異なる都道府県からの流出者の割合

- ◆全国平均で自道府県以外への流出は54.6%
- ◆自エリア内の流動が高いのは南関東（93.6%） 関西（77.9%）、九州（69.7%）の順
- ◆エリア外流出が高いのは、北関東・甲信越（66.7%）、四国（60.7%）、北陸（51.1%）

高校卒・大学進学者に占める異なる都道府県への流出者の割合



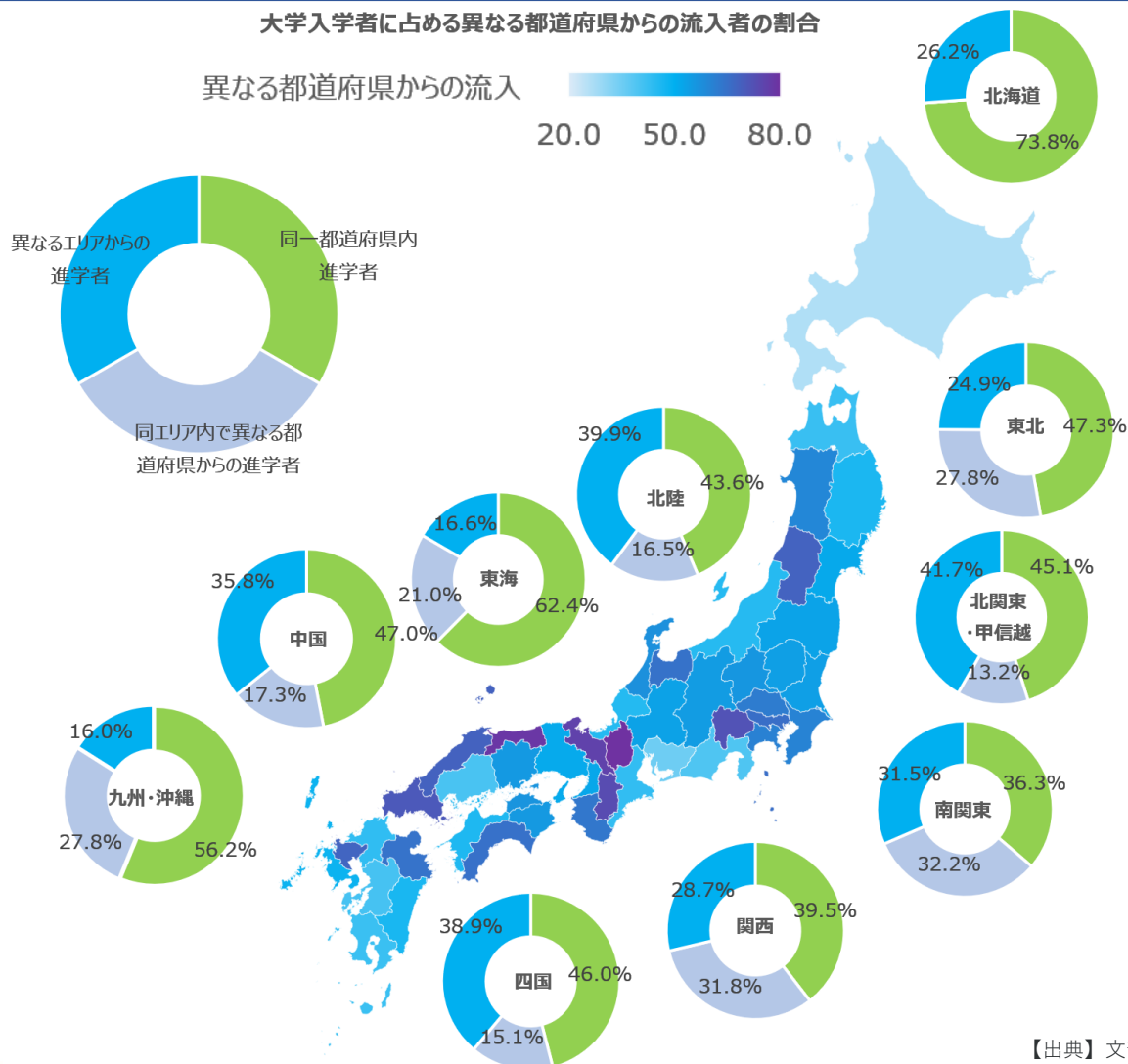
高校卒・大学進学者に占める異なる都道府県への流出者の割合



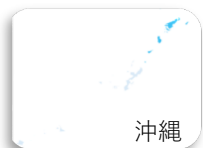
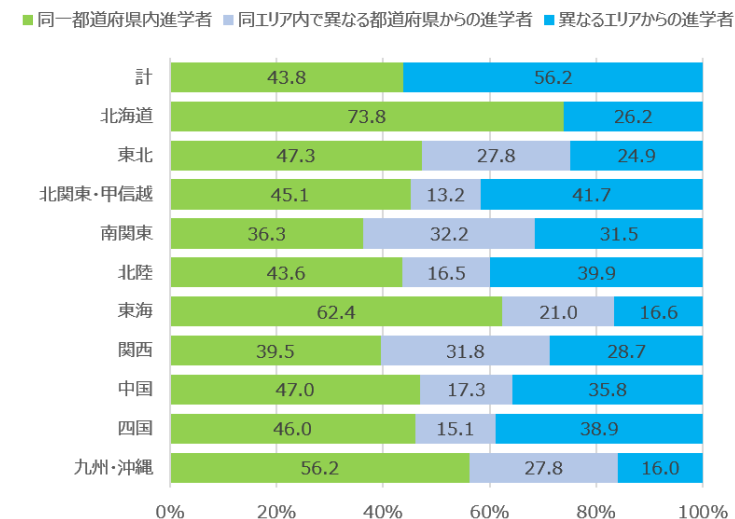
大学入学者に占める異なる都道府県からの流入者の割合

- ◆全国平均で自道府県以外からの流入は43.8%
- ◆他県からの流入が多い道府県（濃紺）は、主に私立大学の数・定員が少ない傾向
- ◆エリア外からの流入が多いのは、北関東・甲信越（41.7%）、北陸（39.9%）、四国（38.9%）

大学入学者に占める異なる都道府県からの流入者の割合

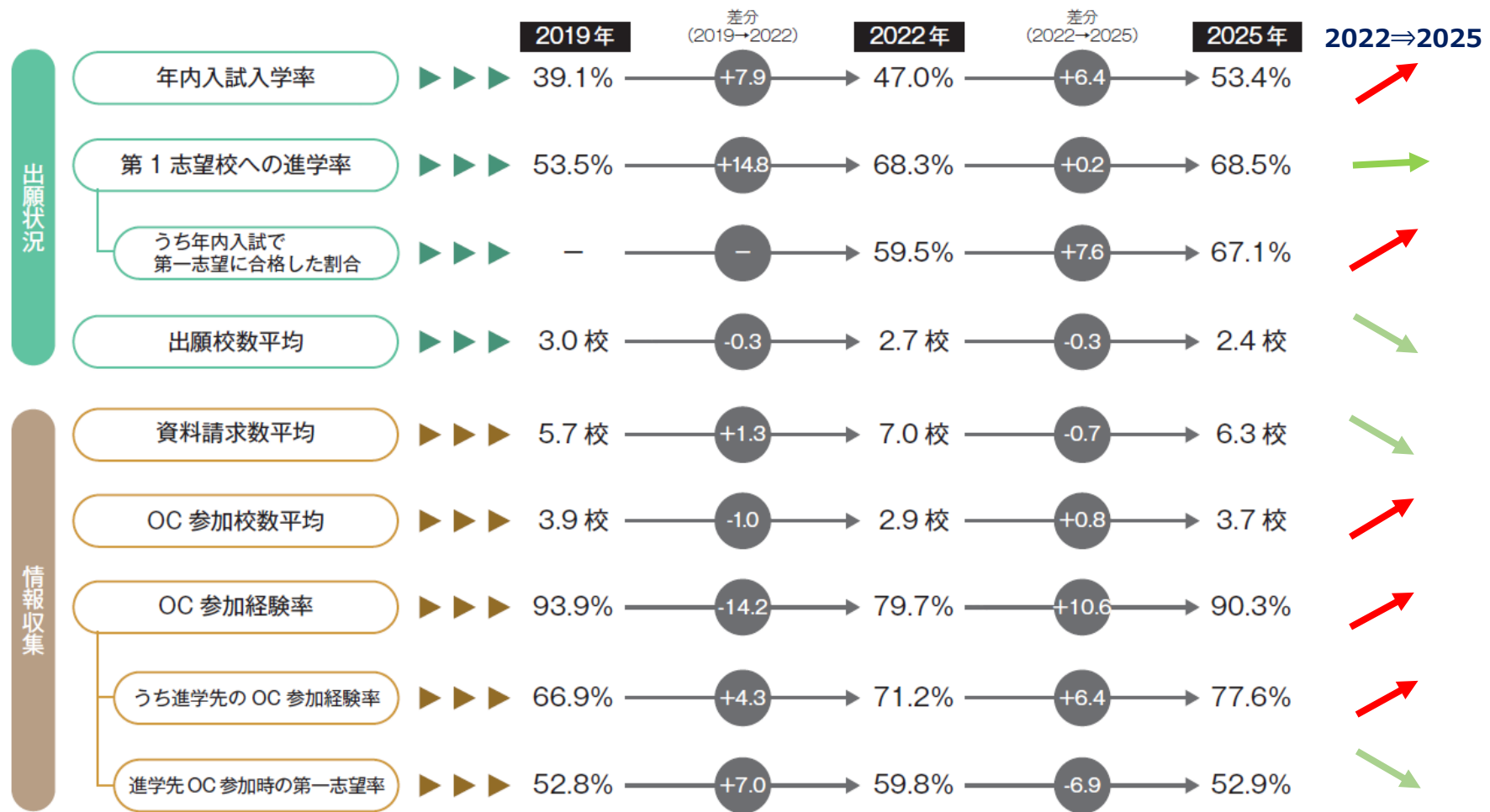


大学入学者に占める異なる都道府県からの流入者の割合



近年の大学進学者 進路選択状況のまとめ

- ◆ 年内入試へのシフトがさらに進み過半数に、進路選択行動で全体的に早期化
- ◆ 出願校数は年々減少し2.4校に。年内入試で第一志望校7割弱が合格。第一志望校へ進学率はも約7割
- ◆ オープンキャンパスに9割超が参加。参加時点での第一志望率は約5割、第一志望校には8割が参加
⇒進学先選びが早期化、オープンキャンパスで最終絞り込み、少ない受験校数で、第一志望に合格している



何を重視して進学先を検討したのか（進学先検討時の重視項目）

- ◆ 上位は「学びたい学部・学科・コースがある」「校風や雰囲気」「可能性が広げられる」「教育内容が魅力的」
- ◆ 伝統や実績があること、有名であることの順位が上がり、偏差値が自分に合っていることは順位が下がる
⇒全体として入学しやすくなり、有名大学志向が高まったか。学びたい学部・学科を重視しない生徒も3割

順位	順位変動		順位変動		進学先検討時の重視項目	2025年 (%)
	2025年	2022年	2019年	2022→2025		
1位	1位	1位	→	→	学びたい学部・学科・コースがあること	67.3
2位	4位	2位	↑	↓	校風や雰囲気が良いこと	31.5
3位	2位	3位	↓	↑	自分の興味や可能性が広げられること	28.6
4位	3位	12位	↓	↑	教育方針・カリキュラムが魅力的であること	26.2
5位	7位	16位	↑	↑	伝統や実績があること	24.1
6位	5位	5位	↓	→	自宅から通えること	21.6
7位	6位	4位	↓	↓	就職に有利であること	21.3
8位	9位	7位	↑	↓	資格取得に有利であること	20.3
9位	14位	20位	↑	↑	有名であること	20.0
10位	7位	10位	↓	↑	学生生活が楽しめること	16.8
11位	9位	8位	↓	↓	偏差値が自分に合っていること	16.1
11位	16位	21位	↑	↑	教育内容のレベルが高いこと	16.1
13位	19位	14位	↑	↓	キャンパスがきれいであること	14.8
14位	11位	6位	↓	↓	将来の選択肢が増えること	14.5
15位	13位	11位	↓	↓	勉強するのに良い環境であること	14.2
16位	18位	18位	↑	→	専門分野を深く学べること	13.6
17位	12位	9位	↓	↓	学習設備や環境が整っていること	13.3
18位	23位	26位	↑	↑	活気がある感じがすること	13.1
19位	17位	13位	↓	↓	入試方法が自分に合っていること	12.7
20位	15位	17位	↓	↑	社会で役立つ力が身につくこと	11.4
20位	21位	19位	↑	↓	交通の便が良いこと	11.4

※ 2025年の上位20項目を抜粋

※ 2回連続順位を上げた項目
2回連続順位を下げた項目

※ 図表内順位変動 対前回比

「↑」ランキングアップ 「↓」ランキングダウン
「→」ランキング同じ

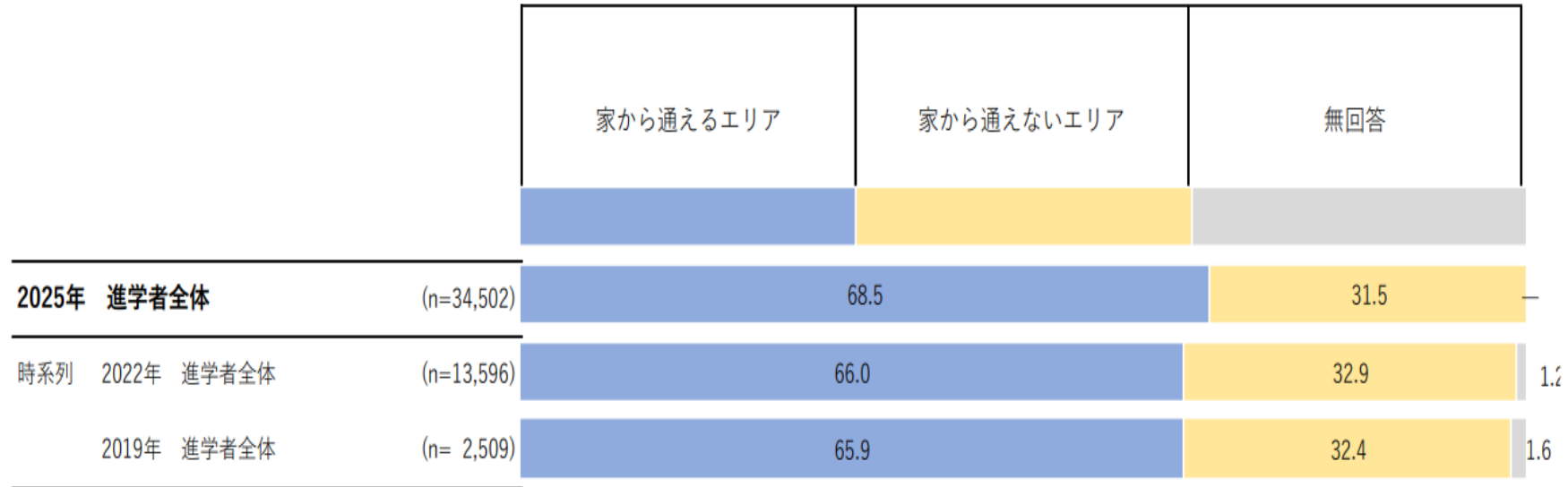
保護者が子どもの進学を希望する保護者が進学先を検討するにあたって重視すること

- ◆ 「こどもの学びたい学部・学科がある」「こどもの興味や可能性が広げられる」「就職に有利」といった【教育内容・制度】、【卒業後】が上位に
- ◆ 「学費が低い」と回答した保護者も3割超

子どもの進学を希望する保護者が進学先を検討するにあたって重視すること			%
1位	【教育内容・制度】	子どもの学びたい学部・学科・コースがある	86.9
2位	【教育内容・制度】	子どもの興味や可能性が広げられる	48.8
3位	【卒業後】	就職に有利である	45.7
4位	【卒業後】	将来の選択肢が増える	37.5
5位	【教育内容・制度】	社会で役立つ力が身につく	35.8
6位	【学生生活】	学生生活が楽しめる	34.0
7位	【卒業後】	卒業後に社会で活躍できる	33.8
7位	【ブランド性】	校風や雰囲気が良い	33.8
9位	【教育内容・制度】	教育方針・カリキュラムが魅力的である	32.6
10位	【入試難易度】	学費が低い	31.3

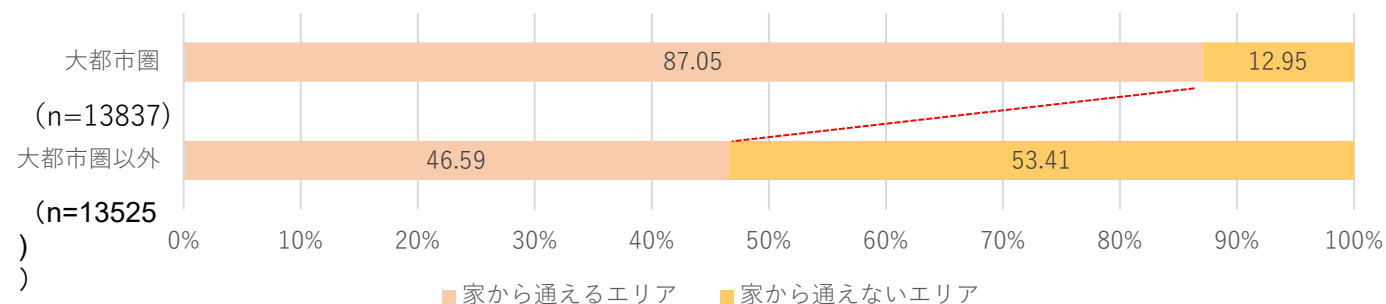
大学進学者・進学先エリア「自宅から通えるエリアへの進学率」 (2022, 2025)

- ◆ 家から通えるエリアに進学は68.5%で、やや増加
 - ◆ 地元進学は、大都市圏（87%）と大都市圏以外（47%）で、大きな差
 - ◆ 大都市圏以外では、過半数が流出（53%）
- ⇒全体としては地元進学率はやや高まるも、大都市圏と大都市圏以外の差が大きい



時: Q1_1

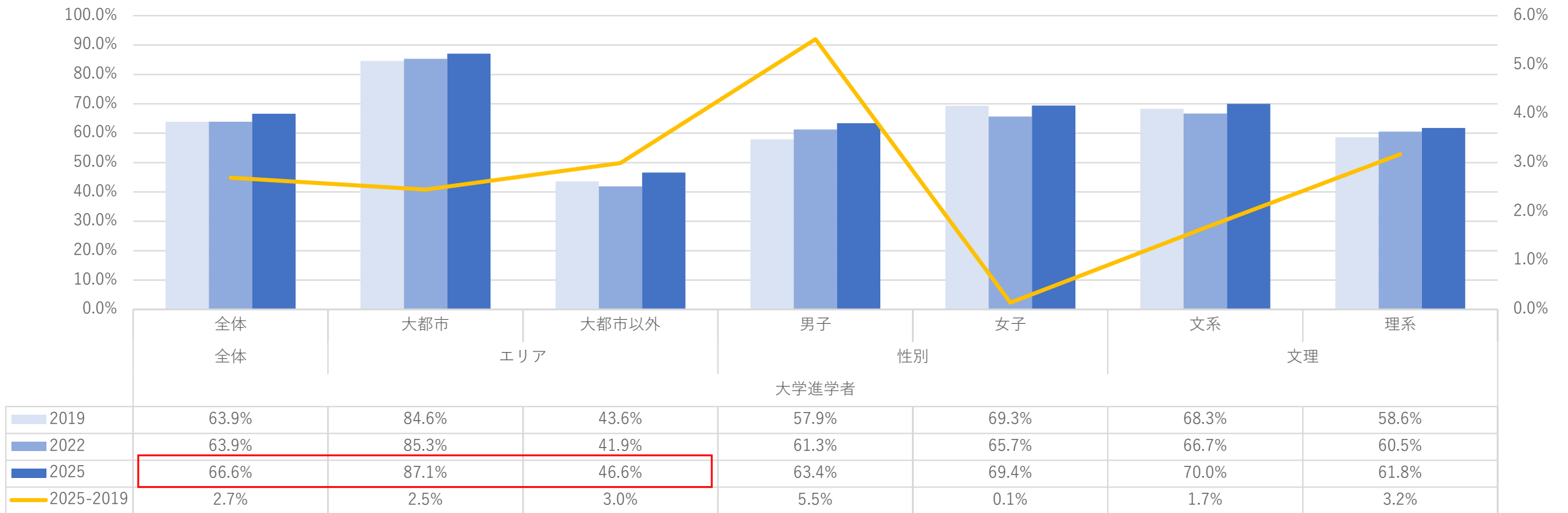
進学先の所在エリア（大学進学者／単一回答）



大学進学者・進学先エリア「自宅から通えるエリアへの進学率」 (2019, 2022, 2025)

- ◆2019年と2025年の比較では、地元進学はいずれも増加傾向
- ◆伸び率を比較すると、大都市圏以外>大都市圏、理系>文系、男子>女子
- ⇒理系、男子が増える一方、女子、文系は伸びていない(学部・学科の状況が関係しているか)

大学進学者・自宅から通う・進学率・2019~2025・SA



「進学センサス調査2019」「進学センサス調査2022」「進学センサス調査2025」リクルート進学総研

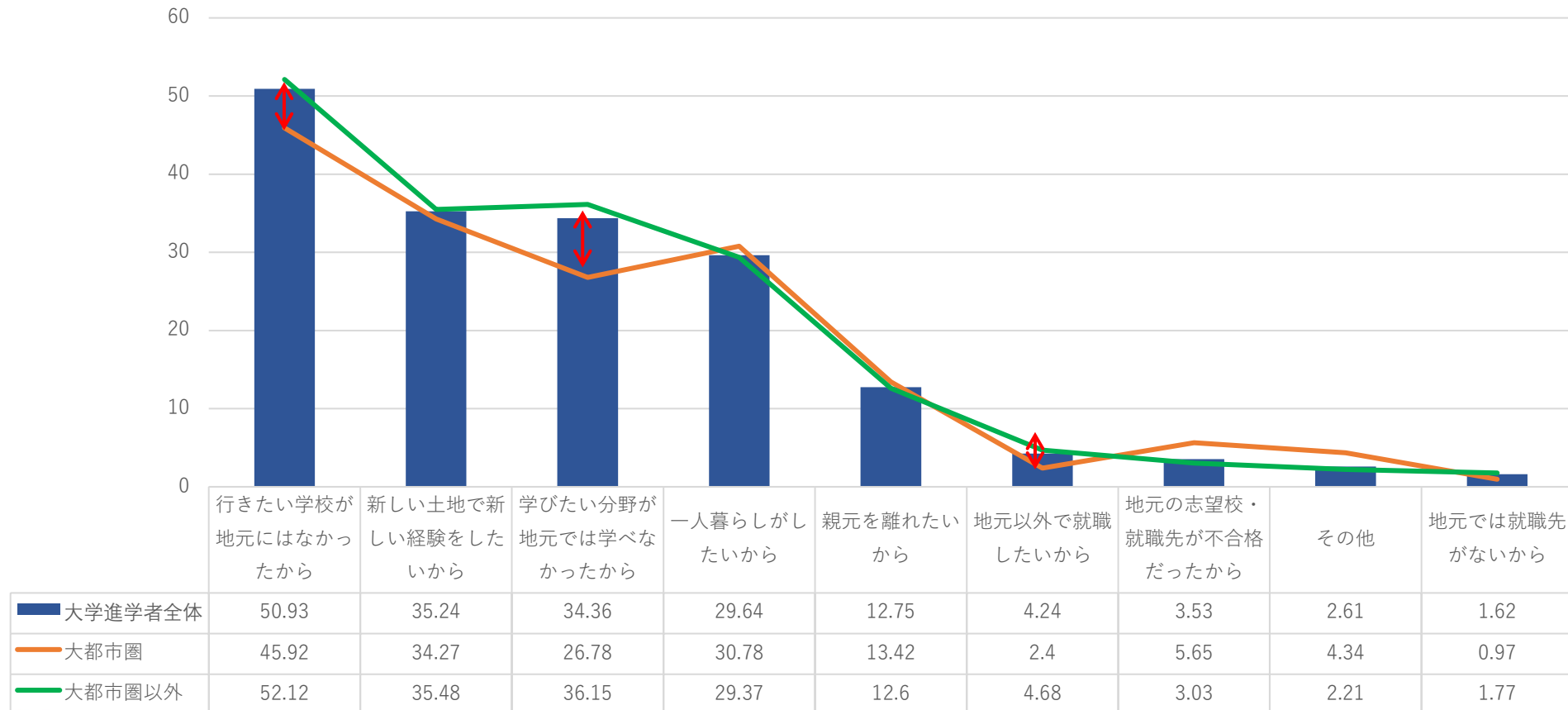
大都市：「南関東」「東海」「関西」の合計、大都市以外：「北海道」「東北」「北関東・甲信越」「北陸」「中国・四国」「九州・沖縄」

大学進学者に絞った集計のため、4P以降のグラフとは集計方法が異なる

大学進学者が地元以外に進学する理由（2025年）

- ◆ 地元から出る理由は、全体では「行きたい学校が地元になかった」「新しい土地で経験したかった」「学びたい分野が地元では学べなかった」の順
- ◆ 大都市圏以外では、「行きたい学校がなかった」「学びたい分野が地元では学べなかった」の順
- ◆ 「地元以外で就職したいから」も大都市圏以外が上回る

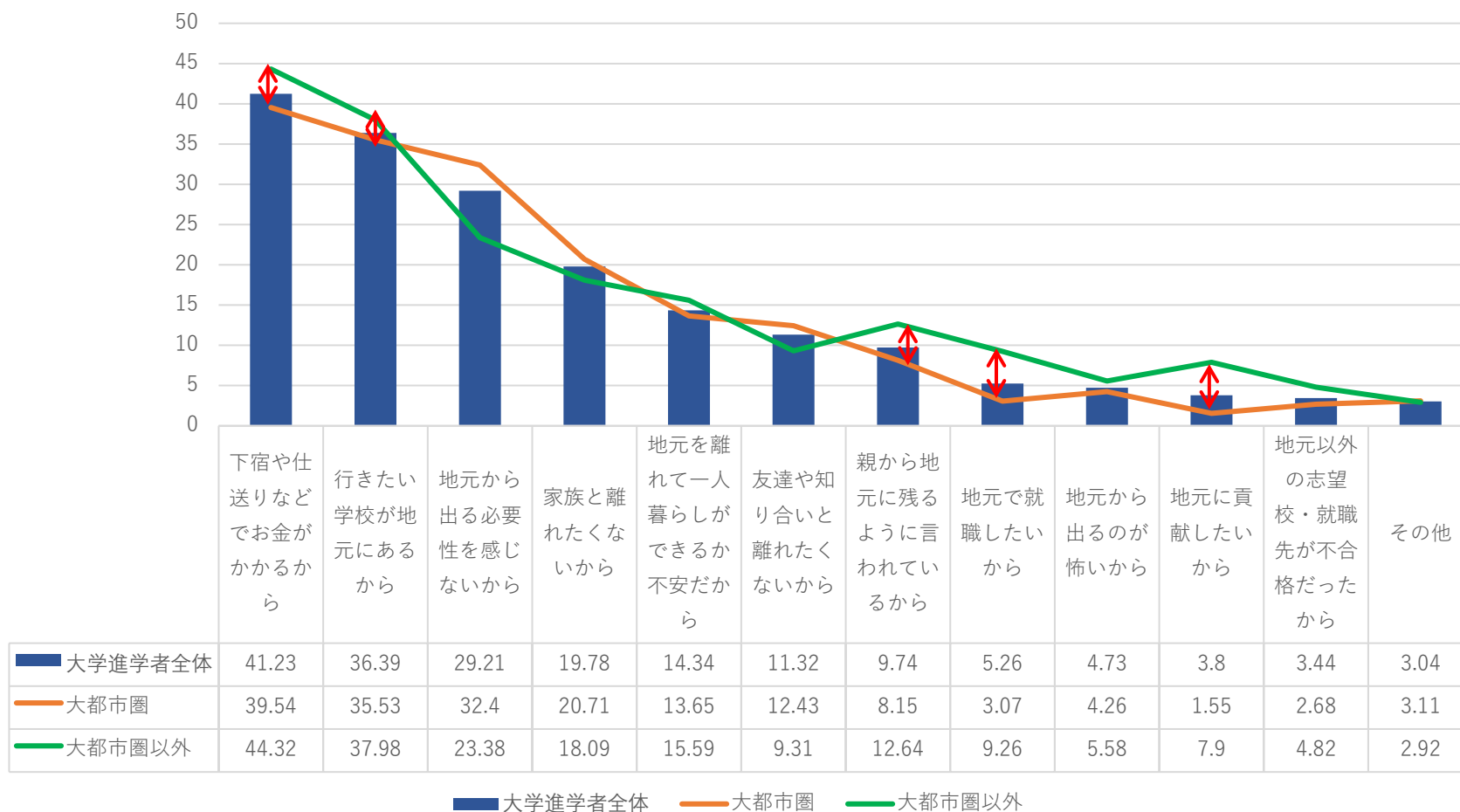
家から通えないエリアへ進学する理由



大学進学者が地元の大学に進学する理由（2025年）

- ◆ 地元残留理由は、「下宿や仕送りでお金がかかる」「行きたい学校が地元にある」「地元から出る必要性を感じない」
- ◆ 大都市圏と大都市圏以外の差としては、
 大都市圏以外 > 大都市圏 「お金がかかる」「行きたい学校がある」「親から言われてれている」「地元で貢献したい」
 大都市圏 > 大都市圏以外 「地元から出る必要性を感じない」

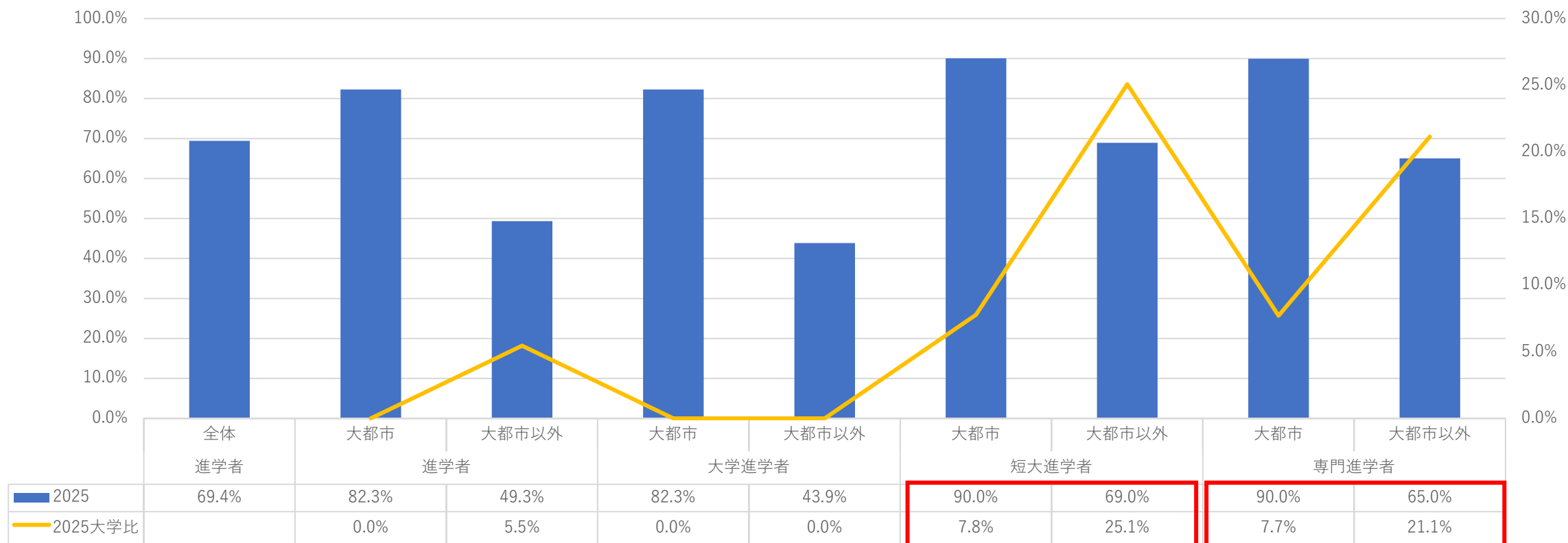
家から通えるエリアへの進学理由



進学先学校種別 進学者・進学先エリア「自宅から通えるエリアへの進学率」 (2025)

- ◆大学と比較すると、短大・専門学校は地元比率が高い。特に大都市圏以外では大きく上回る
- ◆【短大】 大学比 大都市+7.8%、大都市以外25.1%
- ◆【専門学校】 大学比 大都市+7.7%、大都市以外+21.1%

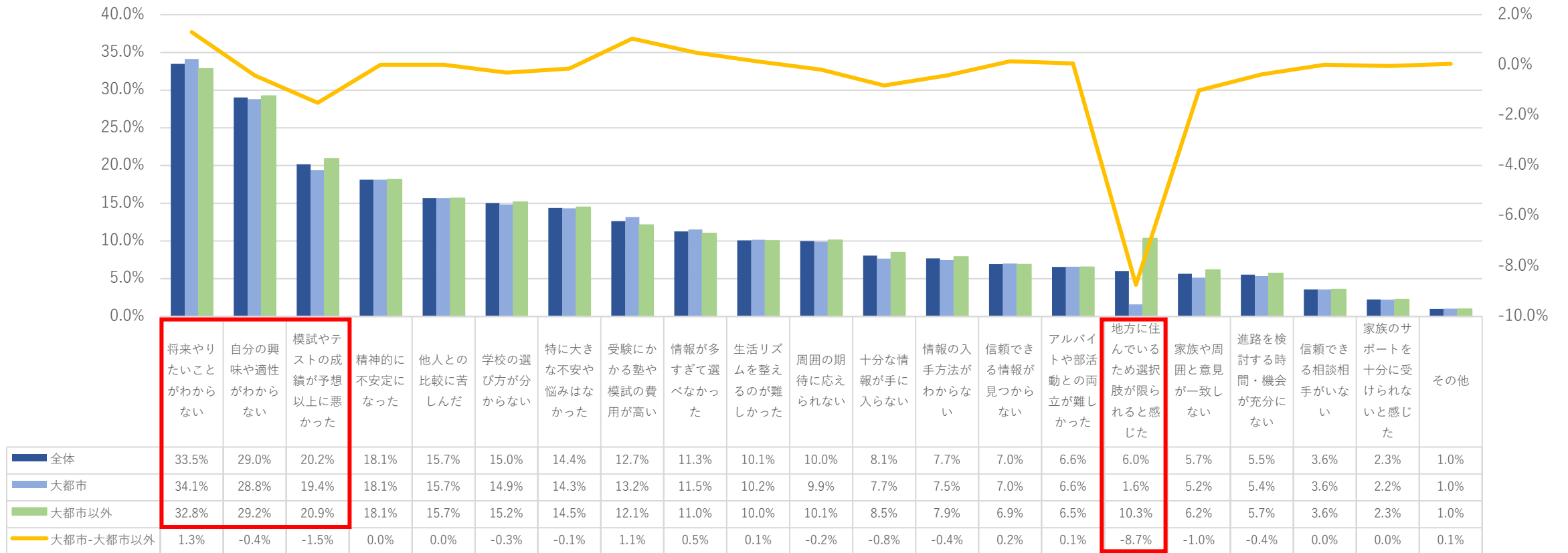
進学者・自宅から通う・進学率・2025・SA



大学進学者が進路選択で感じた不安や悩み (2025)

- ◆大都市、大都市以外ともに「将来やりたいことがわからない」「興味や適性がわからない」「模試やテストの成績が予想以上に悪かった」の順
- ◆大都市以外が大都市を大きく上回っているのが、「地方に住んでいるため選択肢が限られていると感じた」(1割超が回答、大都市比8.7P)

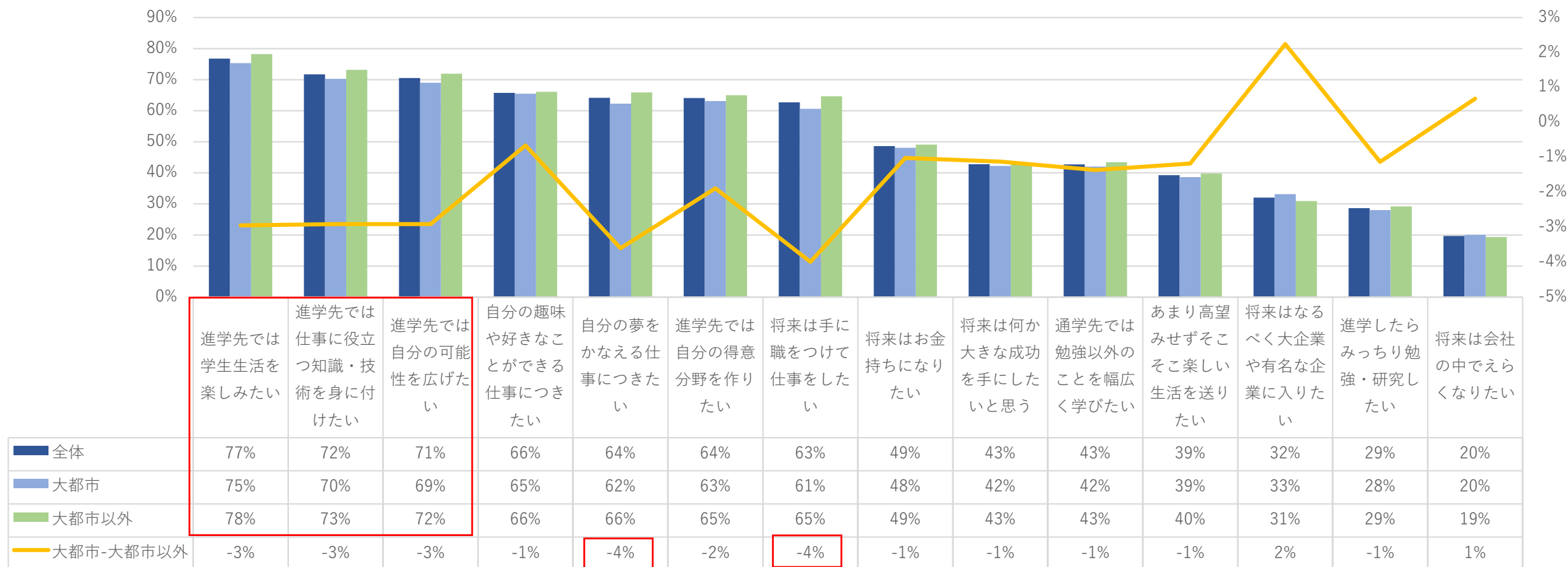
大学進学者・進路選択で感じた不安や悩み・2025・MA



大学進学者における将来の価値意識 (2025)

- ◆大都市、大都市以外ともに「学生生活を楽しみたい」「仕事に役立つ知識技能を身につけたい」「自分の可能性を広げたい」がTOP3
- ◆大都市以外>大都市は、「将来は手に職をつけて仕事をしたい(4P差)」「夢をかなえる仕事につきたい(4P差)」
- ◆大都市>大都市以外は、「将来はなるべく大企業や有名な企業に入りたい(2P差)」

大学進学者・進路選択/将来の価値意識・2025・SA (各項目を「あてはまる」と回答した人の割合)



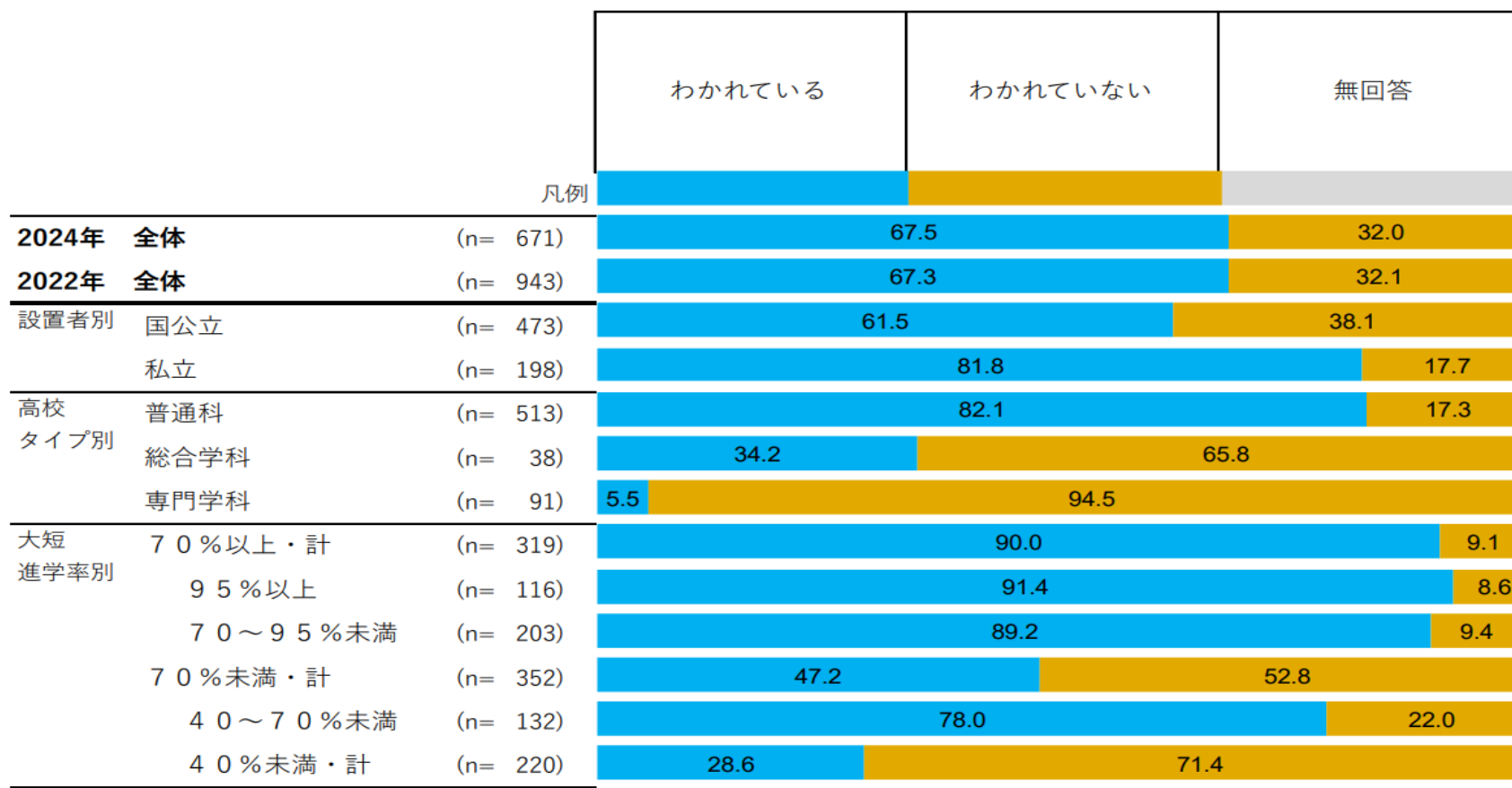
本設問は、各項目に対して、「あてはまる・まああてはまる・どちらでもない・あてはまらない・全くあてはまらない」の内、一つを選択して回答
 「進学センサス調査2025」リクルート進学総研
 大都市：「南関東」「東海」「関西」の合計、大都市以外：「北海道」「東北」「北関東・甲信越」「北陸」「中国・四国」「九州・沖縄」の合計

高校における「文理選択」の状況

- ◆ 高校への調査では、68%が文系・理系コースに「わかれている」
- ◆ 設置者別では私立で82%が、高校タイプ別では普通科が82%と他に比べて高い
- ◆ 高校の大学進学率別では、進学率が高いほど「わかれている」の割合が高く、進学率70%以上では90%が「わかれている」

■ 「文理コース選択」の状況（全体／単一回答）

貴校において、文系・理系コース選択にわかれていますか。



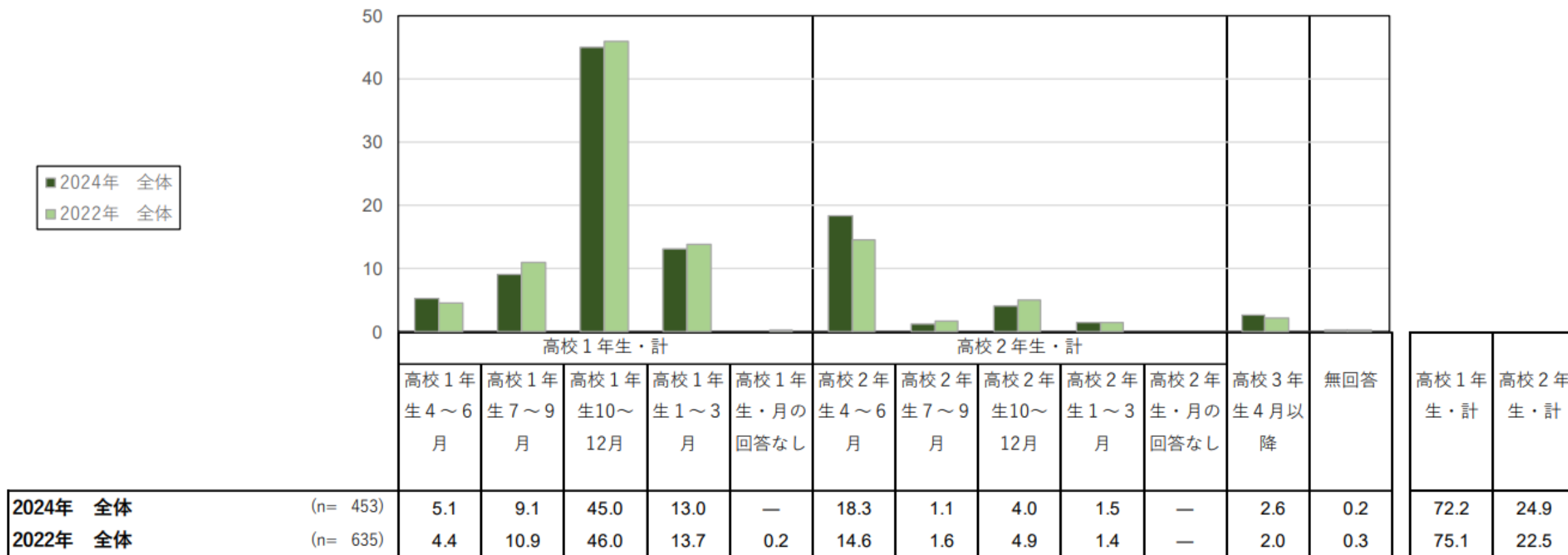
高校における「文理選択」の選択時期

- ◆ 「文理コース」を選択する時期は「高校1年生」が7割を超える（72.2%）
- ◆ なかでも、「高校1年生10月～12月」がおよそ半数を占める

■ 「文理コース」選択時期（コース選択校／単一回答） ※「学年／月」の自由回答を単一回答として集計

(%)

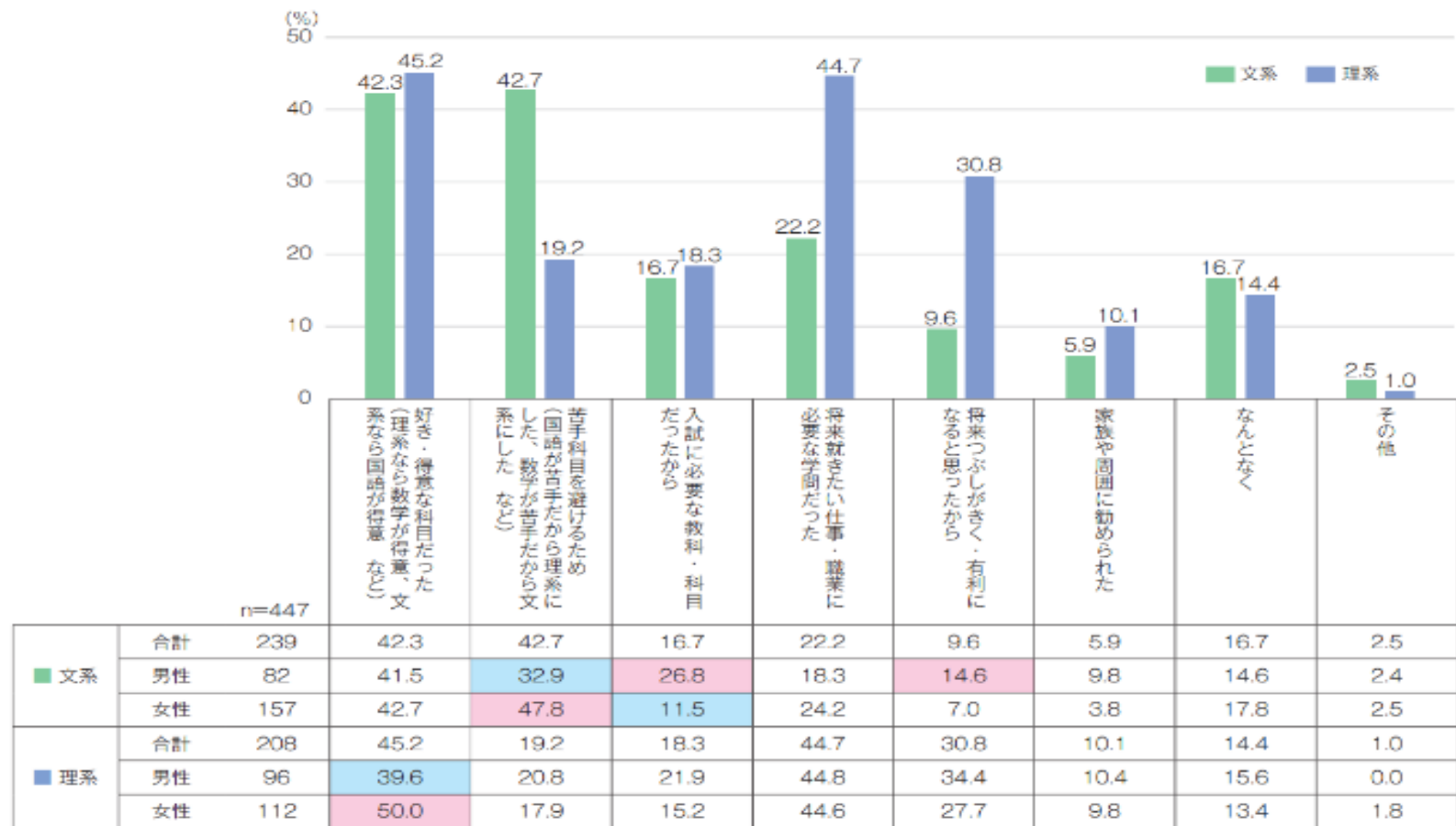
「文系・理系のコースにわかれている」を選択した方にお尋ねします。文系・理系のコースを最終的に選ばせる時期はいつですか？



現在の大学生が文系・理系を選んだ理由

- ◆文系は「苦手科目を避けるため」「好き・得意な科目」「将来就きたい仕事・職業に必要な学問」の順
- ◆理系は「好き・得意な科目」「将来就きたい仕事・職業に必要な学問」「将来つぶしがきく・有利になる」の順
- ◆特に女性は、文系・理系ともに、科目の好き嫌いが理由のトップ

図表 4 文理を選んだ理由 (MA)

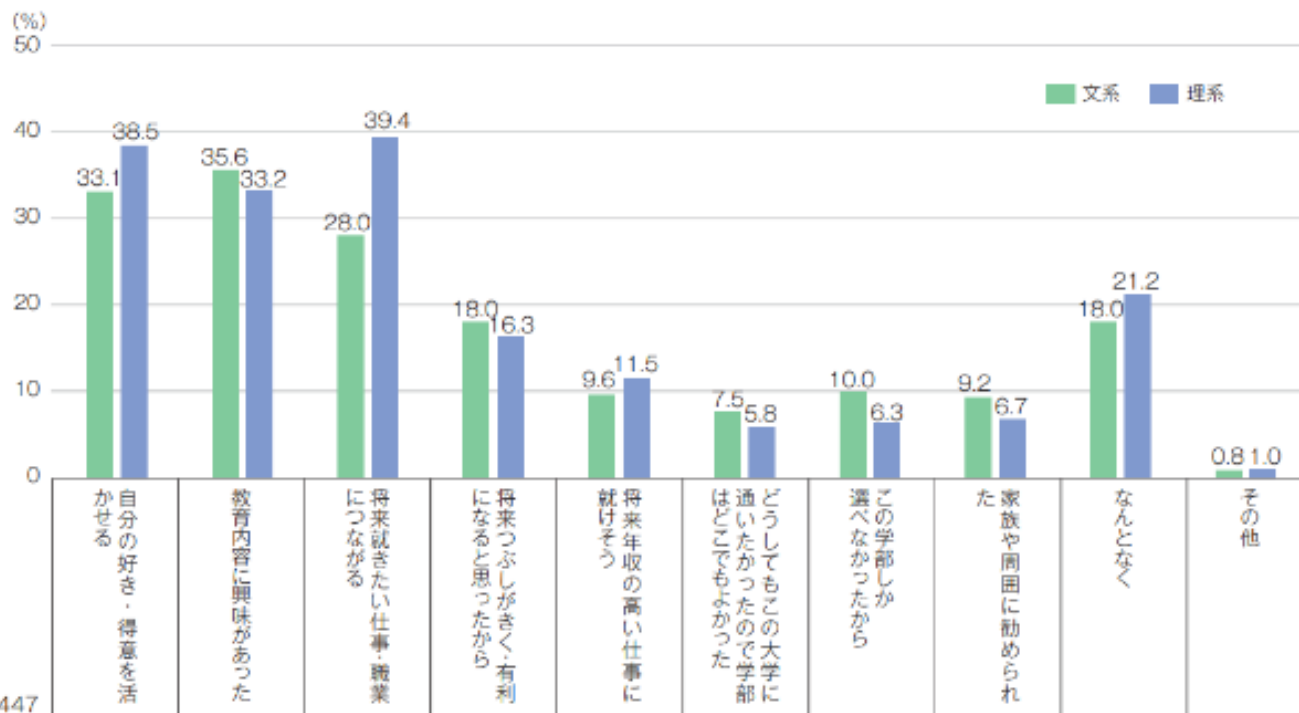


※各合計より 4pt 以上高い項目は赤の網掛け、各合計より 4pt 以上低い項目は青の網掛け

現在の大学生が現在の学部を選んだ理由

- ◆文系は「教育内容に興味があった」「自分の好き・得意を活かせる」「将来就きたい仕事・職業につながる」の順
- ◆理系は「将来就きたい仕事・職業につながる」「自分の好き・得意を活かせる」「教育内容に興味があった」の順

今の学部を選んだ理由 (MA)



n=447

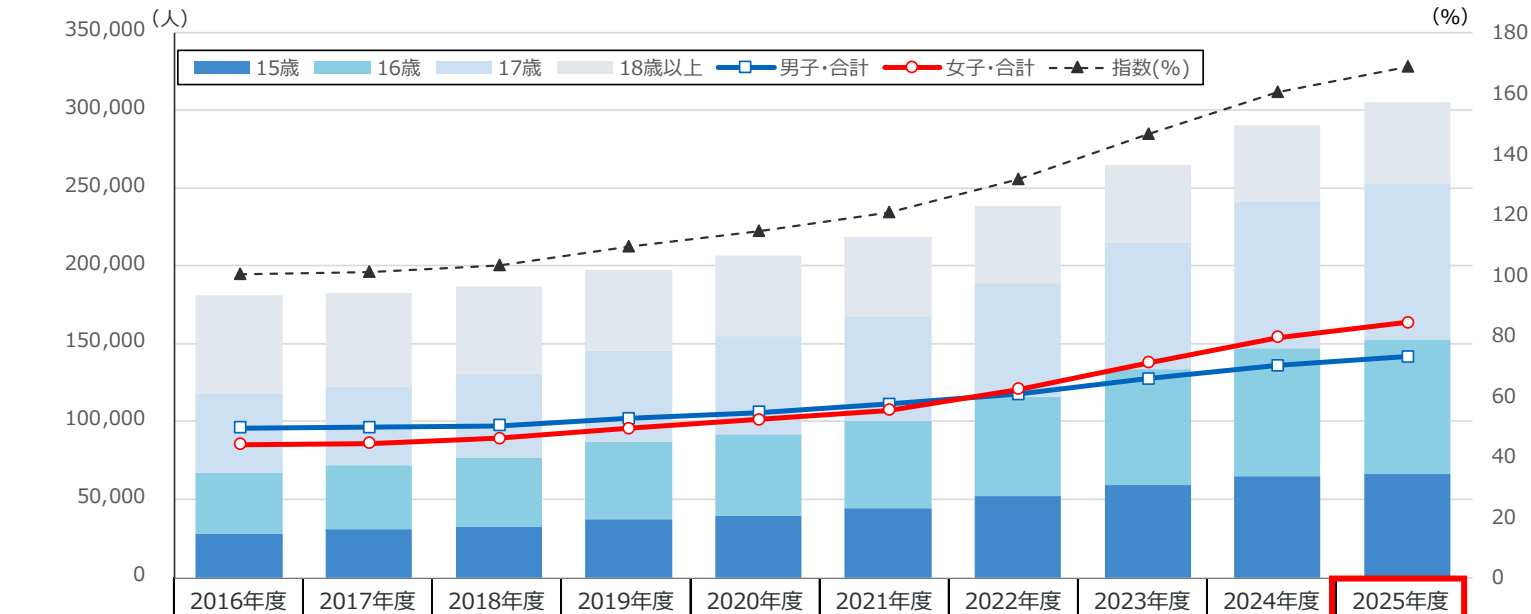
学部	性別	合計	理由									
			自分の好き・得意を活かせる	教育内容に興味があった	将来就きたい仕事・職業につながる	将来つづしがきく・有利になると思ったから	将来年収の高い仕事に就けそう	どうしてもこの大学に通いたかったので学部はどこでもよかった	この学部しか選べなかったから	家族や周囲に勧められた	なんとなく	その他
文系	合計	239	33.1	35.6	28.0	18.0	9.6	7.5	10.0	9.2	18.0	0.8
	男性	82	30.5	34.1	26.8	25.6	12.2	6.1	11.0	9.8	15.9	1.2
	女性	157	34.4	36.3	28.7	14.0	8.3	8.3	9.6	8.9	19.1	0.6
理系	合計	208	38.5	33.2	39.4	16.3	11.5	5.8	6.3	6.7	21.2	1.0
	男性	96	43.8	35.4	37.5	16.7	8.3	5.2	9.4	8.3	21.9	1.0
	女性	112	33.9	31.3	41.1	16.1	14.3	6.3	3.6	5.4	20.5	0.9

※各合計より 4pt 以上高い項目は赤の網掛け、各合計より 4pt 以上低い項目は青の網掛け

通信制高校・全体マーケットデータ

- ◆ 2025年の高校通信制過程の生徒は2016年比で68.6%増の30.5万人
- ◆ 通学課程の生徒287.4万人に対し、通信課程30.5万人と10.6%（10人に1人以上）が通信課程となっている

■ 通信制課程の生徒数の推移



合計	181,031	182,515	186,502	197,696	206,948	218,389	238,267	264,974	290,087	305,197
指数(%)	100.0	100.8	103.0	109.2	114.3	120.6	131.6	146.4	160.2	168.6
15歳	27,948	30,753	32,188	37,526	39,360	44,264	52,210	59,301	65,090	66,097
16歳	39,435	40,979	45,105	49,096	52,647	56,177	63,388	74,384	82,011	86,695
17歳	50,538	50,875	53,596	59,173	62,737	67,205	73,182	81,635	94,030	99,763
18歳以上	63,110	59,908	55,613	51,901	52,204	50,743	49,487	49,654	48,956	52,642
男子・合計	95,813	96,403	97,307	101,974	105,833	111,056	117,654	127,383	136,071	141,710
女子・合計	85,218	86,112	89,195	95,722	101,115	107,333	120,613	137,591	154,016	163,487

※「学校基本調査」学校通信教育調査票：年齢別生徒数

※学校と分校（正規の手続きを完了したもの）は、別々の調査票を作成したもの

※指数は10年前（2016年）を100としたときの%

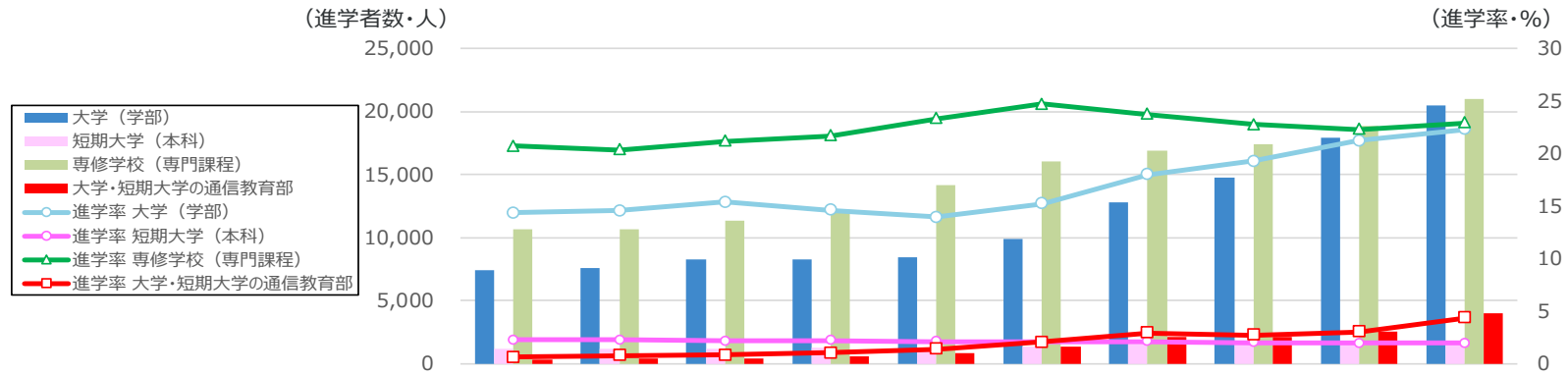
※生徒数には専攻科等の生徒も含む

※調査時点（5月1日現在）の数値

通信制高校・卒業生の進路推移

- ◆2021年以降、大学等（大学・短大合計）への進学率が上昇（2024年、専門学校と逆転）
 - ◆通信制高校から大学・短大通信教育部への進学者（3,982人）進学率（4.3%）も上昇中
- ⇒高校、大学においても、地域にとらわれない通信教育課程が拡大中

■ 状況別卒業生数（進学者数・進学率）



		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
通信制課程高校の同年度内の卒業生数		51,429	52,266	53,550	56,283	60,691	64,893	70,993	76,624	84,450	91,809
進学者数	大学（学部）	7,382	7,598	8,238	8,225	8,446	9,870	12,772	14,780	17,917	20,445
	短期大学（本科）	1,168	1,187	1,146	1,232	1,279	1,353	1,485	1,537	1,662	1,796
	専修学校（専門課程）	10,659	10,621	11,343	12,212	14,162	16,043	16,858	17,430	18,834	21,013
	大学・短期大学の通信教育部	321	392	435	563	852	1,339	2,070	2,071	2,567	3,982
進学率	大学（学部）	14.4	14.5	15.4	14.6	13.9	15.2	18.0	19.3	21.2	22.3
	短期大学（本科）	2.3	2.3	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0
	専修学校（専門課程）	20.7	20.3	21.2	21.7	23.3	24.7	23.7	22.7	22.3	22.9
	大学・短期大学の通信教育部	0.6	0.8	0.8	1.0	1.4	2.1	2.9	2.7	3.0	4.3
※上記以外の進路	上記外の学校への進学者	1,623	1,507	1,260	1,471	1,737	1,719	1,974	1,872	2,685	2,604
	就職者	9,742	10,247	10,501	11,026	14,035	13,274	13,870	14,799	16,942	17,893
	上記以外の者	20,534	20,714	20,627	21,554	20,180	21,295	21,964	24,135	23,843	24,076

<参考> 全日制・定時制+中等教育学校（後期課程）+特別支援学校（高等部）卒業後の状況

計	1,085,234	1,095,947	1,083,222	1,077,571	1,065,064	1,038,943	1,016,300	987,980	944,441	955,335
うち大学・短期大学の通信教育部への進学者	366	407	487	508	538	698	752	711	617	727

※「※上記以外の進路」のうち、「上記以外の学校」は、以下の学校への進学者を含む

・「大学・短期大学（別科）」「高等学校（専攻科）」「特別支援学校高等部（専攻科）」「専修学校学校（一般課程）など」「公共職業能力開発施設など」の合計

※折れ線グラフは、内訳のうち「大学（学部）」「短期大学（本科）」「専修学校（専門課程）」「大学・短期大学の通信教育部」を表示

東京農業大学生物産業学部（オホーツクキャンパス）

ここにしかない研究領域と地域産業（農業・漁業）のマッチングによって地域と共創

<教育研究>

- ◆大学だけでなく、オホーツク全体がキャンパス
- ◆オホーツクの自然をフィールドとした実学
- ◆ここにしかない研究テーマ
(動植物・海洋生物、寒冷地農場、食品加工etc.)

<学生>

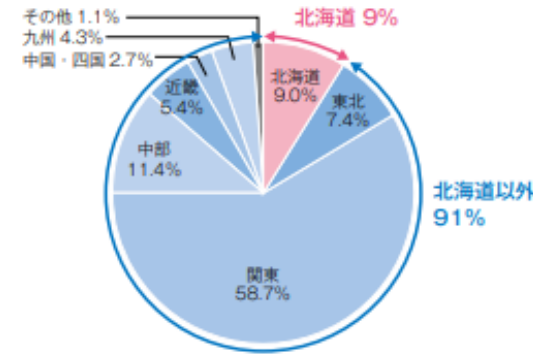
- ◆約9割が道外出身者
- ◆大学のブランドや偏差値より、自身の成長を優先
- ◆アルバイトで1次産業の担い手
(農業と水産業⇒アルバイトを農大生が差配)
- ◆網走マラソンを全1年生が共通演習で支援
- ◆正課・正課外を通じて人間力を醸成

Win=Win

- ◆経済効果と地域活性、地域ブランド創出（盛況な収穫祭、オール網走産の学生ビール等）
- ◆大学のある地域に愛着を持つ「回帰率」を重視
- ◆1989年の開設から一度も定員割れがない



2024 年度在学生出身地域別一覧



「地域」を通じて学生の学習意欲を成長につなげる「アウトキャンパススタディ」

<課題>

- ◆長野県の大学進学率の県内残留率が全国最低レベル
- ◆子どもを都市部に送り出す意識の強い保護者

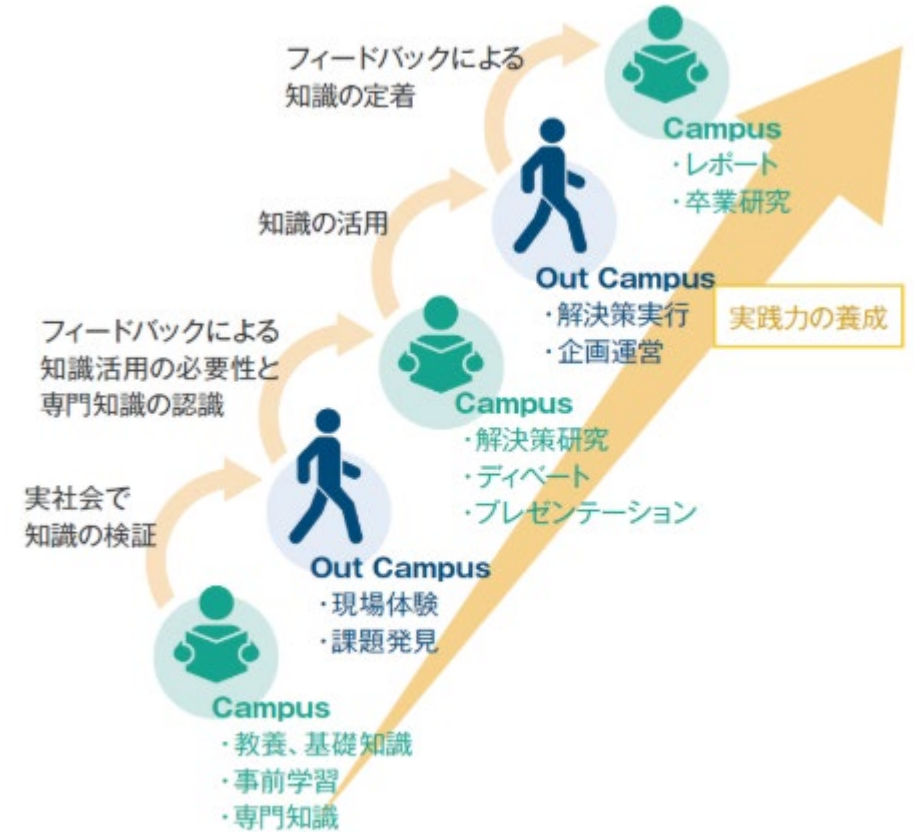
<教育研究>

- ◆大学教育と地域の教育力をつなぐ仕組み
- ◆地域社会（アウト）と学内教育（イン）を往還
- ◆地域連携工房「ゆめ」を通じ、学生の地域連携活動を支援

<学生>

- ◆地域課題を通じて、学生が学ぶことに意味や目的意識を培う
- ⇒もともと目指したのは、地域課題解決
- ⇒しかし、地域との交流で知らないことが多いことに気づく
- ⇒自らの学びのモチベーション向上
- ⇒「地域課題解決」ではなく「地域で学生を育てる」
- ⇒都会では学べないものを提供
- ⇒フィードバックによる知識の定着
- ⇒地元学生の8割が地元就職

アウトキャンパススタディの概念図



リクルート カレッジマネジメント 221 / Mar. - Apr. 2020